

研究・イノベーション学会「国際問題分科会」
(2026年1月14日、オンライン)

グローバルサウスが問う 「空間軸」と「時間軸」 ～地政学的関心を超えて～

矢 野 修 一

高崎経済大学経済学部
(E-mail: yano@tcue.ac.jp)



西谷修・工藤律子・矢野修一・所康弘

『グローバルサウス入門―「南」の論理で読み解く多極世界』（文眞堂、2025年9月刊）

グローバルサウス入門

「南」の論理で読み解く多極世界

西谷 修・工藤律子
矢野修一・所 康弘 [著]



文眞堂

はじめに～本日の講演概要

* 本日の講演

「グローバルサウス」への一般的（＝地政学的）理解に対するオルターナティブの提示

* キーワード

- グローバルサウスの「共時性」
- グローバルサウスの「通時性」
- 奴隷貿易「500年のひずみ」
- 植民地支配「200年のゆがみ」
- 総力戦「100年の重荷」
- グローバルガバナンス「100年の模索」
- 植民地責任
- 戦争責任
- 地球環境責任

日本における「グローバルサウス」の拡散

日経・朝日・毎日・読売・産経の各紙、地方紙
の記事での「グローバルサウス」言及回数：

9件（2022年12月）

→ **88件（2023年1月）**

→ **1117件（2023年5月：G7サミット日本開催）**

～湊一樹「世界を見る目（グローバルサウスと世界）第2回」

『IDEスクエア』2023年9月～

グローバルサウス：一般的理解

主として**南半球**に位置する

新興国・途上国

経済の「**発展段階**」に着目

した「**地理的カテゴリー**」

「グローバルサウス」の類語

南 (the South)

⇔ 北 (the North)

途上国 (developing countries)

⇔ 先進国 (developed ~)

第三世界 (the Third World)

⇔ 第一世界 (the First ~) / 第二世界 (the Second ~)

非同盟諸国 (the nonaligned nations) cf. **G77**

⇔ 西側 (the West) / 東側 (the East)

新興国 (emerging countries)

⇔ 先進国

地政学／地経学

* 地政学 (geopolitics)

地理的な条件に着目しながら軍事・外交などの国家戦略、外交関係を考察する学問。**国家を唯一至高の分析単位**とする。

* 地経学 (geoeconomics)

国家が地政学的な目的を達成するために経済を手段として使用する局面の分析を行う学問。**国家を唯一至高の分析単位**とする。

cf. **経済の戦略化** (economic statecraft) 、 **経済安全保障** (economic security)

グローバルサウスへの地政学的関心

＊ 「新しい」状況  「新しい」呼称：グローバルサウス

冷戦終結

新興国の台頭

G7の相対的地位低下

＊ グローバルサウス：大国が覇を競い合う「草刈場」？

⇒ 「ポスト冷戦」の終焉：新冷戦？

＊ 漁夫の利狙う グローバルサウス？

⇒ 若干の

違和感あり

グローバルサウスの地政学関連略年表（2022年2月24日～2025年4月2日）

【2022年】

2月 ロシア、ウクライナ侵攻開始（2月24日）

3月 ロシア主要7銀行、SWIFT排除決定

3月 第11回国連緊急特別総会（UNGA Resolution ES-11）

「ロシアによるウクライナ侵略の認定・撤兵要求決議（ES-11/1）」

（反対5／棄権35／欠席12／賛成141）

「ウクライナ侵略の人道問題解決決議（ES-11/2）」

（反対5／棄権38／欠席10／賛成140）

日本政府、アフリカ開発会議（TICAD）閣僚会議開催（オンライン）

4月 「人権理事会におけるロシアの資格停止決議（ES-11/3）」

（反対24／棄権58／欠席18／賛成93）

中国「グローバル安全保障イニシアティブ（GSI）」創設

5月 アメリカ「インド太平洋経済枠組み（IPEF）」創設

6月 アメリカ、G7首脳会合（ドイツ・エルマウ）にて「グローバル・インフラ投資
パートナーシップ（PGII）」発表

BRICS首脳会合（オンライン）

グローバルサウスの地政学関連略年表（2022年2月24日～2025年4月2日）

- 7月 インドネシア、GCC（湾岸協力会議）加盟国・アラブ首長国連邦（UAE）と
 包括的経済連携協定締結
 アメリカ、インド・イスラエル・UAEとのI2U2首脳初会合
- 8月 日本政府、第8回アフリカ開発会議（TICAD8）開催（チュニジア）
- 9月 上海協力機構（SCO）、第22回首脳会合で「サマルカンド宣言」採択
 （SCO加盟国の自国通貨建て決済比率拡大など）
- 10月 「ロシアによるウクライナ4州併合非難決議（ES-11/4）」
 （反対5／棄権35／欠席10／賛成143）
- 11月 「ロシアによる戦後賠償決議（ES-11/5）」
 （反対14／棄権73／欠席12／賛成94）
 国連気候変動枠組み条約締約国会議（COP27）で気候変動に伴う
 「損失と損害」に対する補償議題（エジプト、シャルム・エル・シェイク）
 G20首脳会合（インドネシア・バリ）
- 12月 日本政府、国家安全保障戦略改定

グローバルサウスの地政学関連略年表（2022年2月24日～2025年4月2日）

【2023年】

- 1月 インド、「グローバルサウスの声」サミット開催（オンライン）
アメリカ、「経済繁栄のための米州パートナーシップ（APEP）」発足（バルバドス・カナダ・チリ・コロンビア・コスタリカ・ドミニカ共和国・エクアドル・メキシコ・パナマ・ペルー・ウルグアイ参加）
- 2月 「ロシア軍即時撤退要求決議（ES-11/6）」（反対7／棄権32／欠席13／賛成141）
- 3月 アメリカ、第2回「民主主義サミット」オンライン開催・共同宣言採択（署名国約6割）
中国、サウジアラビア・イラン国交正常化仲介
中国、「グローバル文明イニシアティブ（GCI）」発足
日本、「自由で開かれたアジア太平洋（FOIP）」新プラン発表
- 4月 日本、「政府安全保障能力強化支援（OSA）」創設
日本、G7外相会合にて「グローバルサウス」の呼称使用停止確認
- 5月 G7首脳会合（日本）
日本、G7拡大会合に韓国・オーストラリア・インド（G20議長国）・インドネシア（ASEAN議長国）・クック諸島（太平洋諸島フォーラム議長国）・コモロ（AU議長国）・ブラジル・ベトナム招待、
ウクライナ大統領ゼレンスキー来日
中国、「中国＋中央アジア5カ国」首脳会議開催（西安）
- 6月 日本、「オファー型協力」含めODA大綱改定
フランス・マクロン大統領、「新グローバル協定のためのサミット」開催

グローバルサウスの地政学関連略年表（2022年2月24日～2025年4月2日）

7月 オランダ国王ウィレムアレクサンダー、奴隷制廃止150年を機に「人道に対する罪」として謝罪演説

イラン、上海協力機構正式加盟（SCO第23回首脳会合、インド・ニューデリー）

第2回ロシア・アフリカ首脳会議開催（ロシア・サンクトペテルブルク）、新植民地主義批判

8月 パウロ・ノゲイラ・バティスタ・ジュニア、BRICS共通通貨構想講演

BRICS首脳会議（南ア・ヨハネスブルグ）にて、6カ国（アルゼンチン・エチオピア・エジプト・イラン・サウジアラビア・UAE）の新規加盟決定（のちアルゼンチン離脱）

9月 アメリカ、ベトナムとの包括的戦略パートナーシップ合意

G20サミットでアフリカ連合（AU）加盟決定（議長国インド）

アメリカ「インド・中東・欧州経済回廊（IMEC）計画」発表

10月 ハマスによるイスラエル奇襲襲撃

日本政府、「グローバルサウス諸国との連携強化推進会議」初会合

中国、第3回「一帯一路国際協力サミットフォーラム」開催（北京）

国連総会緊急特別会合（ES-10/21）、イスラエル非難及び即時かつ持続的な人道的休戦、戦闘行為の停止決議
（反対14／棄権44／欠席14／賛成121）

11月 インド、第2回「グローバルサウスの声」サミット開催（オンライン）

COP28開催（UAE・ドバイ）、「損失と損害」基金の運用、化石燃料の「段階的廃止」から「脱却（transition away）」決定

12月 イタリア、一帯一路離脱

国連総会緊急特別会合（ES-10/22）、人道的な即時停戦決議
（反対10／棄権23／欠席6／賛成153）

南ア、パレスチナ・ガザ地区でのイスラエルの戦闘行為をジェノサイドとして国際司法裁判所（ICJ）に提訴

グローバルサウスの地政学関連略年表（2022年2月24日～2025年4月2日）

【2024年】

1月 イラン、エチオピア、エジプト、UAEがBRICS正式加盟

4月 ASEAN有識者調査（*The State of Southeast Asia: 2024 Survey Report*）において、

「究極の同盟国」の選択で中国（50.5%）がアメリカ（49.5%）を上回る

岸田首相、アメリカ上下両院合同会議で「未来のためのグローバルパートナー」
演説

日本経団連、「グローバルサウスとの連携強化に関する提言」発表

5月 国連総会緊急特別会合（ES-10/23）、パレスチナ国家の国連加盟資格決議

（反対9／棄権25／欠席16／賛成143）

6月 日本、「グローバルサウス諸国との新たな連携強化に向けた方針」発表

タイ、BRICS加盟正式申請とともにOECD加盟協議

G7首脳会合（イタリア・プーリア）

チリ、RCEP加盟申請

マレーシア・クアラルンプール／中国・重慶間でASEANエクスプレス鉄道開通

グローバルサウスの地政学関連略年表（2022年2月24日～2025年4月2日）

- 7月 ベラルーシ、第24回首脳会合で上海協力機構正式加盟→SCO10カ国体制
マレーシア、BRICS加盟正式申請
国際司法裁判所（ICJ）、イスラエルの占領政策に違法判断
- 8月 インド、第3回「グローバルサウスの声サミット」開催（オンライン）
- 9月 国連「未来サミット」開催、「未来のための協定」採択
- 10月 BRICS首脳会合（ロシア・カザン）で「パートナー国」創設決定
英連邦諸国首脳声明で「奴隷貿易賠償問題」に言及
- 11月 COP29開催（アゼルバイジャン・バクー）
G20首脳会合（議長国ブラジル）、飢餓対策と超富裕層課税強化に向けた協力で合意
ペルー・チャンカイ港（中国遠洋海運集団60%出資）開港
北極海航路（北東航路）での中露協力、分科会初会合
- 12月 EU、メルコスルとFTA締結最終合意
シリア・アサド政権崩壊
国連総会にて、ガザ即時停戦とUNRWA活動支持決議
中国、キルギス・ウズベキスタンとの鉄道プロジェクト（ロシアを經由しない欧亚鉄道）着工
トランプ次期アメリカ大統領、グリーンランド領有の意向表明、パナマ運河返還要求

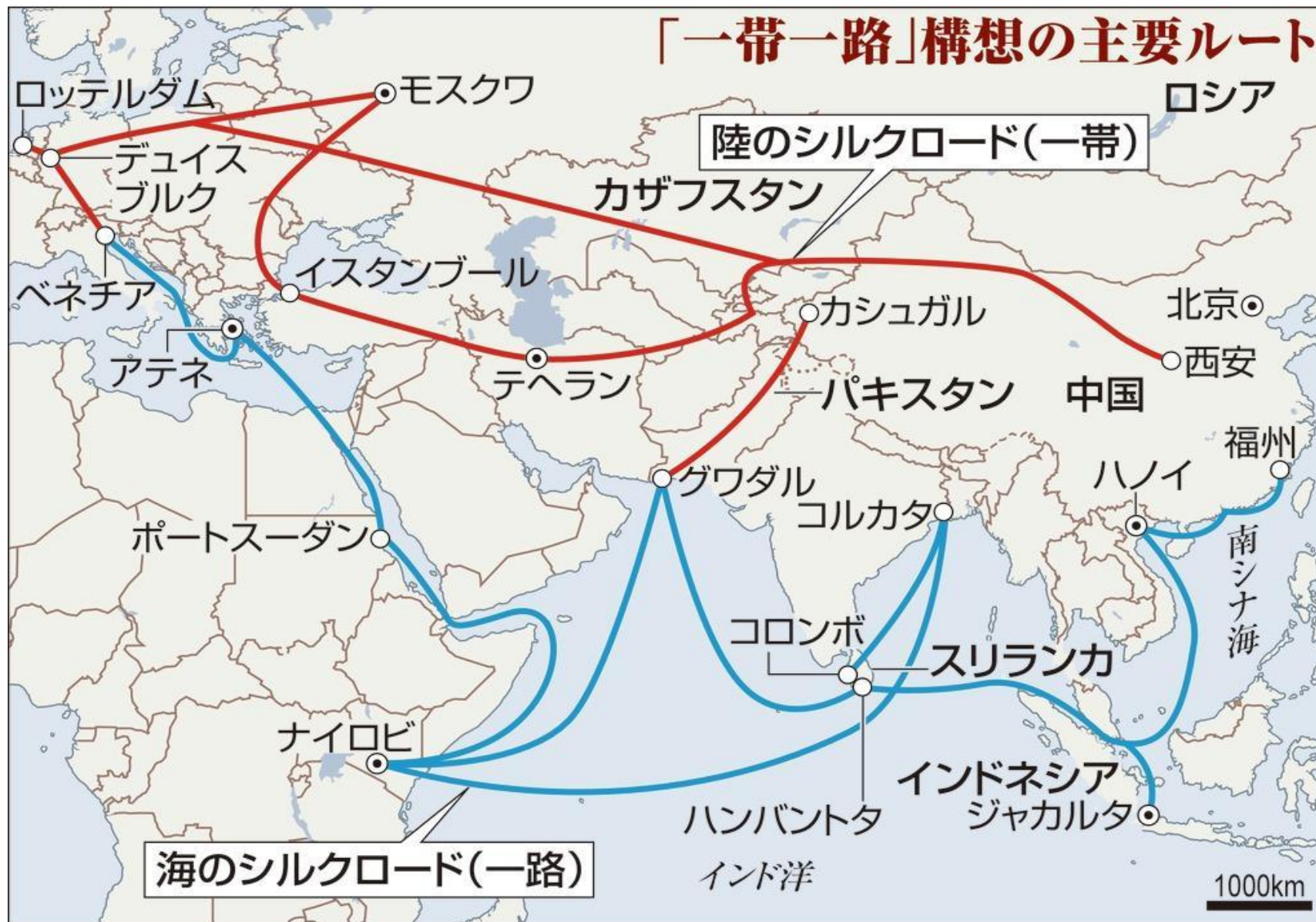
グローバルサウスの地政学関連略年表（2022年2月24日～2025年4月2日）

【2025年】

- 1月 **インドネシア、BRICS加盟**
トランプ大統領、グリーンランド購入構想発表
アルメニア、ロシアとのCSTO（集団安全保障機構）離脱後、アメリカと戦略パートナーシップ憲章締結
マレーシア、GCC加盟国UAEと包括的経済連携協定締結
イラン・ロシア、包括的戦略的パートナーシップ協定調印
アメリカ、トランプ大統領が就任し、OECDの国際課税ルールからの離脱、WHO脱退発表
インド・モディ首相、インドネシア・プラボウォ大統領首脳会談
アメリカ、パリ協定離脱通告（2026年1月27日、正式離脱）
トランプ大統領、SNSでBRICS共通通貨の使用を牽制
- 2月 アメリカ、カナダ・メキシコ・中国への追加関税発動
パナマ、一帯一路離脱
トランプ大統領、ガザ地区の高級リゾート地化主張
トランプ大統領、南アの土地政策を白人差別的と批判し援助停止
トランプ大統領、USAIDの職員1600人削減、実質閉鎖決定
日本・インド・アフリカ官民フォーラム開催（日本経済新聞社・経産省共催）
G20財務相・中央銀行総裁会議（南ア）、共同声明なく閉幕
- 3月 アメリカ、鉄鋼・アルミニウム輸入への25%関税発動
EU、シリア復興に58億ユーロ拠出表明
EU、南アに対する47億ユーロの投資パッケージ発表
- 4月 **アメリカ、「相互関税」発動（4月2日）**

一帯一路構想

～『産経新聞』2019年5月3日付～



外務省「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）のための新たなプラン（概要）」資料（2023年3月）

自由で開かれたインド太平洋（Free and Open Indo-Pacific）

「地球儀を俯瞰する外交」

国際協調主義に基づく「積極的平和主義」

安倍政権の実績を踏まえ、これらの外交コンセプトを更に発展させる

自由で開かれたインド太平洋

国際社会の安定と繁栄の鍵を握るのは、

「2つの大陸」：成長著しい「アジア」と潜在力溢れる「アフリカ」

「2つの大洋」：自由で開かれた「太平洋」と「インド洋」

の交わりにより生まれるダイナミズム

⇒ これらを一体として捉えることで、新たな日本外交の地平を切り拓く

アフリカ

- 高い潜在性
 - ・ 人口約13億人（世界の17%）
→2050年には25億人との予測
 - ・ 面積3000万km²（世界の22%）
 - ・ 高い経済成長率（2000~16年の平均は4.8%）
 - ・ 豊富な資源と有望な市場
- ⇒ 「成長大陸」として飛躍する中、
貧困・テロ等の課題あり

アフリカ諸国に対し、開発面に加えて政治面・ガバナンス面でも、押しつけや介入ではなく、オーナーシップを尊重した国造り支援を行う

◆ インド太平洋地域は、海賊、テロ、大量破壊兵器の拡散、自然災害、現状変更等の様々な脅威に直面。このような状況下において、日本は、法の支配を含むルールに基づく国際秩序の確保、航行の自由、紛争の平和的解決、自由貿易の推進を通じて、インド太平洋を「国際公共財」として自由で開かれたものとする事で、この地域における平和、安定、繁栄の促進を目指す。



アジア

- 東南アジア及び南アジアでは民主主義・法の支配・市場経済が根付き、自信・責任・リーダーシップの目覚めあり
- ⇒ 今や「世界の主役」たるアジアの成功を、自由で開かれたインド太平洋を通じてアフリカに広げ、その潜在力を引き出す

ASEAN地域の連結性を向上させることで、質の高いインフラ整備、貿易・投資の促進、ビジネス環境整備、人材育成強化を図る。ASEANの成功を、中東・アフリカ等の地域に広げる

一帯一路の進化／深化

＊発足当初の一帯一路（One Belt, One Road）：

ユーラシア輸送回廊構想

＊現在の一帯一路（BRI: Belt & Road Initiative）：

中国による世界規模の開発協力構想

デジタル・シルクロード

極地シルクロード

保健衛生シルクロード

宇宙シルクロード

グリーン・シルクロード

＊一帯一路参加国数：2023年9月時点で154カ国（国連加盟国の約8割）

「国民国家」を単位とする分析

方法論的ナショナリズム

地政学／地経学：国民国家を唯一至高の単位として

「**私たち**」をひとまとめにし「**彼ら**」と分かつ

貿易・金融・投資・労働力移動について、発展段階だけが異なる**同質・均一の国民国家間で生ずる二国間の経済事象とする分析**

👉 方法論上、見えない「**現実**」があるのではないか？

👉 **要らぬ対立**を生み出しかねないのではないか？

社会的カテゴリーとしてのグローバルサウス

＊ 冷戦終結後の「新しい」状況

新自由主義的グローバル化：マネー、輸送・ICT技術

地球上の**時間と空間の圧縮**

グローバル資本主義の**受益者と犠牲者**：国境で区切っているのは捉えきれない格差・不平等・疎外を体現する人々・地域の拡大

👉 地理的カテゴリー／旧来の術語に代わる

「**社会的カテゴリーとしてのグローバルサウス**」

グローバルな共時的存在の可視化：新自由主義的グローバル化に対する**国境を越えた連帯と抵抗**の潜在的主体模索する動き

グローバルサウスの「共時性」

＊ グローバル化の「恩恵を受ける者」「疎外される者」：国境で区切られず

「南」と同様に貧しい場所、貧しい人々は「北」にも存在

ex. アメリカ諸都市にエスニックごとのゲットー、バリオあり
「絶望死」の広がるアメリカ

「北」と同様に裕福な場所、裕福な人々は「南」にも存在

ex. リオやサンチャゴにコスモポリタン・エリート向けのゲーティッド・コミュニティ (gated community) あり。

cf. 2022年2月24日の戦争勃発後、ネパールの貧しい若者は傭兵としてロシア軍にも
ウクライナ軍にも従軍→国によらず、貧しいほど「徴兵」されやすい現実

→国境で区切っていたのでは捉えきれない格差・不平等・貧困：

グローバル資本主義が生み出す「グローバル」な「サウス」

「グローバルサウス」の捉えなおし

* 「グローバルサウス」：地政学的関心を超えて

同質・均一の国民国家を前提しては捉えきれず対処しきれない、**資本主義の長期的展開**のなか世界中で生み出されてきた（生み出されている）**搾取・抑圧・貧困・不平等の表象**

→ 「南-北」「途上国-先進国」といった**地理的二項概念**、国家の**発展段階による二項区分**では捉えきれない現実を認識し可視化するための「グローバルサウス」

* 「グローバル」な「サウス」、「歴史的」な「サウス」

グローバルサウスの「共時性」と「通時性」

グローバルサウスの通時性

- * 奴隷貿易「500年のひずみ」
- * 植民地支配「200年のゆがみ」
- * 総力戦「100年の重荷」

→資本主義への根源的問いがないまま、また、歴史へのまなざしを欠如させたまま、**国民国家を単位としてグローバルサウスをもっぱら地政学的関心で論じる風潮**への違和感

→現代にまで影響する決定・行動の「責任」の所在や何処？

- * 植民地責任
- * 戦争責任
- * 地球環境責任



法の支配に基づく国際秩序？
民主主義？
基本的人権？

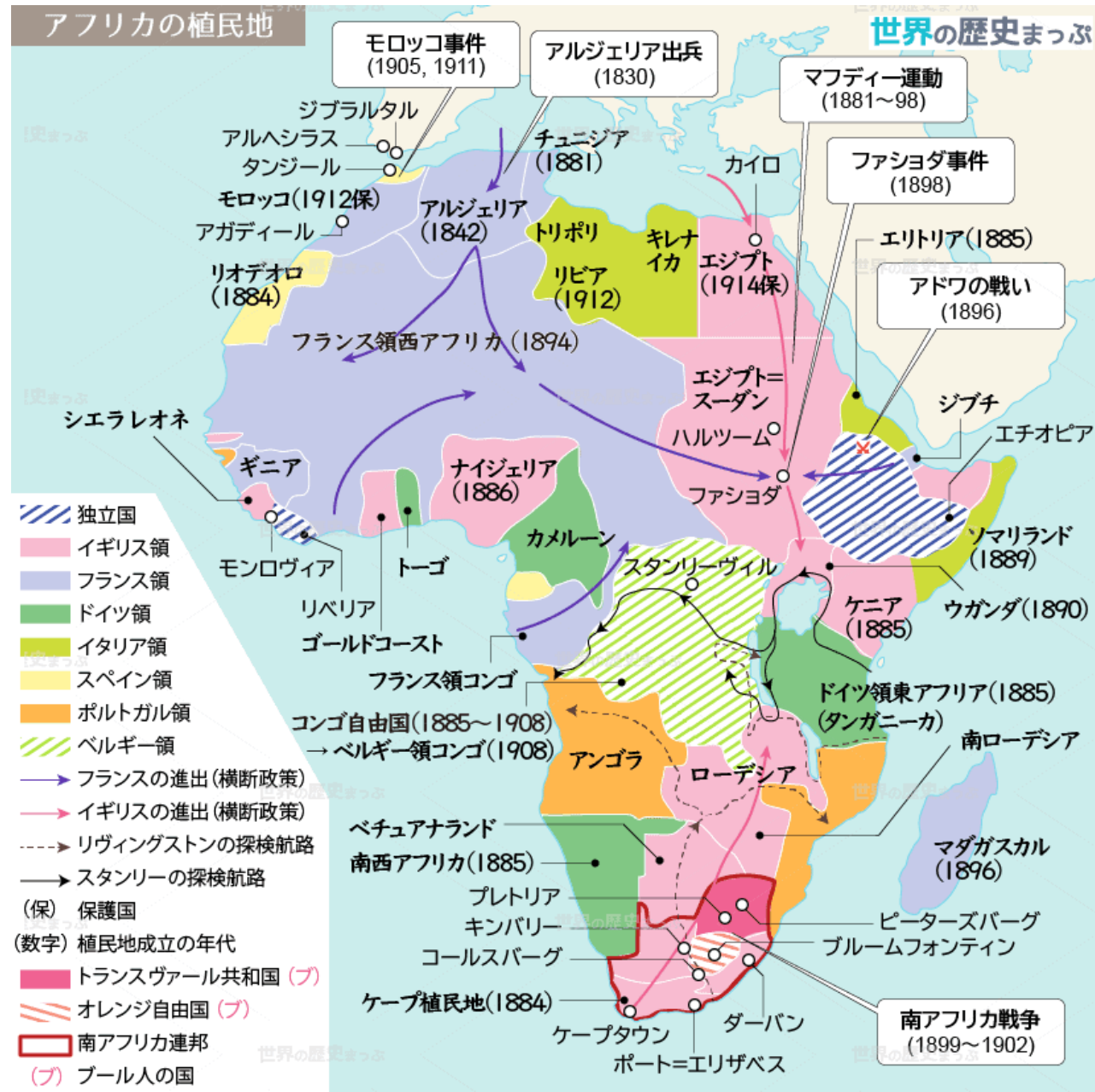
奴隷貿易～アフリカ「500年のひずみ」

- * 15世紀以降、ヨーロッパとの一方的かつ暴力的な接触の結果、組織的かつ永続的に実施された大陸間の「**奴隷貿易**」
- * 「捕獲」され「積み出された」奴隷の数：1200万人から2000万人
- * 「輸送」を生き延び、南北アメリカへ「陸揚げ」された奴隷：800万人から1050万人
- * **アフリカ・ホロコースト**：アフリカの経済成長と社会的安定に対し、政治的独立後、60年や70年で払拭しきれない悪影響
 - 21世紀の現在でも、数多くの奴隷が連れ去られた地域ほど貧困の度合いは深刻であり、発展にとって重要な社会の「信頼度」が低い（ネイサン・ナン「奴隷貿易はアフリカにどのような影響を与えたか」ジャレド・ダイヤモンド他『歴史は実験できるのか』慶応大学出版会、2018年）

植民地支配～アフリカ「200年のゆがみ」

- * 19世紀以降の**奴隷貿易の終焉と植民地支配の強化**
- * **ヨーロッパ7カ国によるアフリカ支配**：イギリス（14カ国）、フランス（17カ国）、ドイツ（4カ国）、イタリア（2カ国）、スペイン（2カ国）、ポルトガル（5カ国）、ベルギー（3カ国）
- * **分割統治**に向けた「民族」「部族」「酋長」の政策的創出：伝統的には流動的なアフリカ社会で人の移動を禁止し、**画一的かつ相互に排他的な単位**創出
- * アフリカ新興独立国エリートによる**植民地統治機構の継承**
 - 👉 **特定民族優遇政策**とそれに対する**分離独立闘争**
 - 👉 **ポスト・コロニアルのガバナンス問題**の深刻化・複雑化

アフリカの植民地～「世界の歴史マップ」 (<http://sekainorekisi.com>) より



先進国の「植民地責任」

* 植民地責任

奴隷貿易と植民地支配の歴史

「500年のひずみ」と「200年のゆがみ」

👉 「今さら」ではなく「今だからこそ」問うべき、あるいは
「今になってようやく」問えるようになった植民地責任

* 第二次世界大戦時の戦争犯罪・戦争責任、黒人奴隷・黒人差別の補償をめぐる裁判の積み重ね、オーラルヒストリーを含めた歴史研究の蓄積

👉 2001年8月、国連主催のダーバン人種差別反対会議（人種主義、人種差別、排外主義、および関連する不寛容に関する世界会議）

近代国民国家形成と帝国形成の「同期性」①

欧州における国民国家形成と植民地形成の

同期性＝同時並行性

国民国家が内包する**「帝国性」**

＊ エリック・ホブズボーム『帝国の時代』：

「**国家が国民をつくる**のであって、国民が国家をつくるのではない」

「国家は国民をつくったというだけでなく、**つくる必要があった**」

近代国民国家形成と帝国形成の「同期性」②

- * 帝国主義国としての「活動」：戦争と侵略
 - 👉 国民国家の凝集力、**新しい宗教**としてのナショナリズム醸成
- * ナショナルな領域を創り出した**近代**
 - 👉 **植民地体制**という**階層化・序列化された世界秩序**の形成
- * 先進国における「**帝国主義のDNA**」

国民国家の階層的統合と排除①

＊ 伊豫谷登士翁『グローバリゼーション』ちくま新書、2021年。

近代国民国家＝帝国主義国家による「人の移動」の
管理・制限

➡ 出入国、シチズンシップ、ナショナル리티のコントロール（国家による「**私たち**」と「**彼ら**」の境界線設定）

➡ 低賃金余剰労働力と格差を維持・固定化する装置

➡ 国家による「制限」が推進するグローバリゼーション

国民国家の階層的統合と排除②

～アメリカの場合

* アメリカの「**帝国性**」：「**西漸運動**」「**神意**」「**マニフェスト・デスティニー**」

* アメリカの「**神話**」：「**自由の地**」「**移民国家アメリカ**」

⇔ 「**人種のポリティクス**」：権力による「**境界**」操作

👉 人種主義に基づく **階層的国民統合と監視・排除**

1790年 帰化法…市民権申請を「自由白人」に限定

1808年 奴隷貿易停止

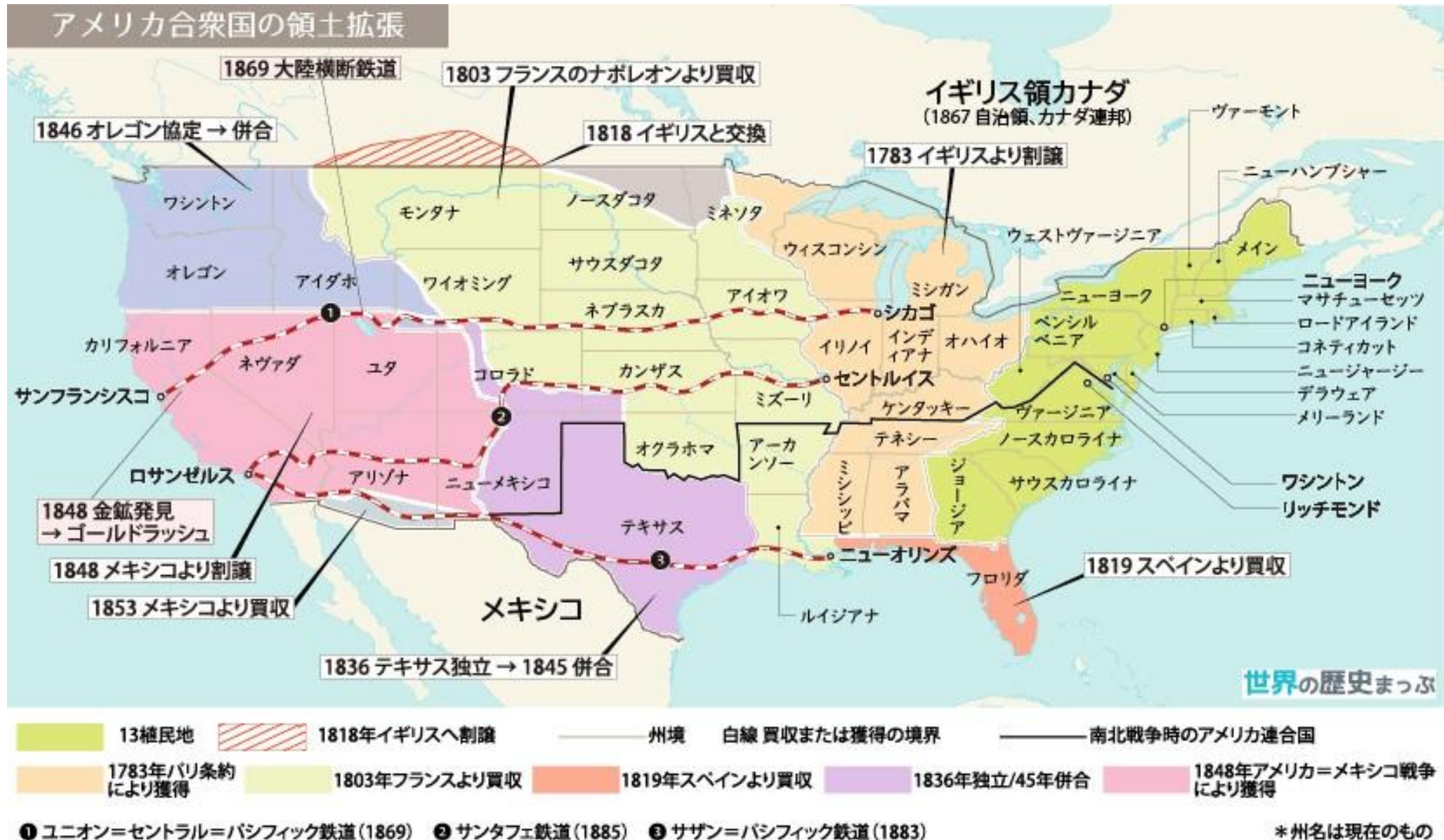
1865年 **奴隷解放**→中国人移民流入 cf. **異人種間結婚禁止** **一滴血統主義**

1882年 排華移民法…中国人移民制限 「**帰化不能外国人**」化

1921年 移民割当法 cf. **黄禍論** 日本人の「**帰化不能外国人**」化

1924年 排日移民法

アメリカ合衆国の領土拡張～「世界の歴史マップ」 (<http://sekainorekisi.com>) より



「帝国の総力戦」と戦争責任①

- * 第一次世界大戦 ≠ 1914年8月開戦・1918年11月終戦のヨーロッパ「国民」国家間の戦争

- * 植民地の存在

 - ☞ 第一次世界大戦の「世界性」

- * グローバルサウスと第一次世界大戦

 - ☞ 戦争に至る経緯から戦後処理までグローバルサウス抜きには実相に迫れず

 - ☞ 先進国の「植民地責任」「戦争責任」 cf. パレスチナ問題

「帝国の総力戦」と「戦争責任」②

* 「懲罰遠征」としての植民地戦争：

1871年～1914年：オランダ32回、フランス40回、
イギリス（インド西北部のみで）22回

1888年～1902年：ドイツ（東アフリカのみで）84回

cf. ドイツ領西南アフリカでの「ヘレロ・ナマ戦争」（1904年～1908年）時のジェノサイド→**21世紀の「今になってようやく」の訴訟**

* 「世界戦争／帝国の総力戦」の先駆け・実験としての

植民地戦争：機関銃・空爆・塹壕戦・強制収容所・収容者監視体制など

cf. イスラエルによるパレスチナ統治、武器見本市化するパレスチナ戦争

脱植民地化～苦闘の歴史①

- * **ウィルソンの「平和十四か条」**における**民族自決**
→ 非ヨーロッパ世界（＝グローバルサウス）対象外
cf. 委任統治制度
- * **第一次世界大戦後における民族運動の弾圧と懐柔**
- * **「帝国の総力戦」100年の重荷**

エジプトにおける1919年革命弾圧と「独立」承認（1922年）

インドにおけるローラット法

アムリットサル事件とインド統治法（1919年）

朝鮮における三一運動弾圧と文化政治（1919年） など

脱植民地化～苦闘の歴史②

- * **大西洋憲章／国連憲章**にも盛り込まれた「**民族自決**」
- * 旧宗主国からの**政治的独立**で完遂しない「**脱植民地化**」
 - 領土を区切れば「私たち」が自然に生み出されるものではない
 - 区切ることによって「私たち」同士が平和的に共存できるわけでもない
- * **欧米各国の自国第一主義的／機会主義的対応**
 - ex. **ユーラフリカ構想**：アフリカのヨーロッパ共同植民地化構想
 - 旧宗主国による独立阻止の軍事介入：フランスによるアルジェリアFLNとの武装闘争、イギリスによるケニア・マウマウの反乱弾圧など

先進国の「地球環境責任」

＊ 「人新世」における「大加速」

～中野聡「「大加速」の時代」木畑洋一他編『岩波講座世界歴史第23巻』岩波書店、2023年～

人間活動12の指標

- ①人口 ②実質GDP ③海外直接投資 ④都市人口 ⑤一次エネルギー使用
- ⑥化学肥料使用 ⑦大規模ダム ⑧水資源利用 ⑨紙生産 ⑩自動車台数
- ⑪電話契約数 ⑫海外旅行入国者数

地球システムの変化12の指標

- ①二酸化炭素 ②窒素酸化物 ③メタン ④成層圏オゾンの喪失
- ⑤地表温度 ⑥海洋酸性化 ⑦漁業資源の捕獲 ⑧エビ養殖
- ⑨沿岸への窒素流出 ⑩熱帯雨林の喪失
- ⑪陸地面積に占める濃厚畜産土地利用 ⑫陸域生物圏の劣化

ガバナンス改革に向けた先進国の責任

- * グローバルサウス：発展上の課題を植民地／地球環境へ「外部化」できず
- * 先進国：「植民地責任」「戦争責任」＋「地球環境責任」
- * 先進国：道義的・経済的・地政学的に「ゲーティッド・コミュニティ（gated communities）」（要塞）化できず
- * グローバルサウスの**発展／脱植民地化問題**
- * 中露を含め、**グローバルガバナンス**改革の必要性

グローバルサウスの発展に向けた グローバルガバナンスの歴史①

- * **グローバルガバナンス**：越境する問題群の操舵／マネジメント
- * **世界政府がない**状況での統治（**governance without government**）
という現実的選択肢
- * 「帝国の総力戦」たる第一次世界大戦後の100年

主権国家の緩やかな連合体（**国際連盟/国際連合**）を中心とした
グローバルガバナンス「**100年の模索**」

国家：権能と正統性の形式を整えた**ガバナンスの現実的主体**

👉 方法論的ナショナリズムで可視化できない人類史的「問い」
を前に

グローバルサウスの発展に向けた グローバルガバナンスの歴史②

＊ グローバルガバナンスの制度的工夫

👉 「**完全な離脱は不可能**」 （アルバート・ハーシュマン）

＊ 「**国力の原理**」 と 「**主権平等の原理**」 の妥協

理事会／総会の二層構造

大国の拒否権

共通だが差異ある責任 Common but Differentiated Responsibility

特別かつ異なる待遇 Special and Differential Treatment

ガバナンス改革の方向性の模索

- * グローバルサウスという「問い」への解に向けた「現在地」

- * グローバルガバナンスの現状評価

「国境を越える価値観と行動原理に関する合意」の**醸成**

「人類のグローバルな連帯と分権的な自己統治の仕組み」の**模索**

「平和と安寧」「人間の尊厳の保障」への**傾向**

- * 対立と破滅が運命づけられているわけではない人類史

- * ただし、いまだ不十分なガバナンス

汎地域主義構想①

* アフラシア：「アジア＋アフリカ」

世界の国々の面積の約46%

2100年の人口：世界全体（111.8億人）のうちアジア4割（47.8億人）、
アフリカ4割（44.7億人）で**合計8割**

経済成長・交流の現状と将来性

植民地支配と戦争に苛まれた共通の歴史

歴史的に育まれてきた「**汎地域主義**」の思想

汎地域主義としてのアフラシア構想

～峯陽一『2100年の世界地図』岩波新書、2019年。

* アフラシアの発展経路：人類の将来左右

汎地域主義構想②

- * **地域概念の政治性**：領域国家を超えた地域の枠組みがどのような理念の下、どのような主体によって推進されるのか

cf. **大東亜共栄圏／一帯一路／インド太平洋**

- * 人口・経済成長・埋蔵資源・地政学上の関心

 **「市場と原料」の桎梏打開**を目指すなら
「あの頃」と同じ

グローバルサウスとは……

**グローバルサウスは場所ではない。
「問い」であり
「プロジェクト」である。**

cf. 「**第三世界は場所ではない。プロジェクトである**」

ヴィジャイ・プラシャド『褐色の世界史—第三世界とは何か』
水声社、2013年。

主要参考文献

☆矢野修一（2023）「「現実主義」に関する一考察—2020年代の「現実」のなかで」『地域政策研究』第25巻第3号、高崎経済大学地域政策学会。

([高崎経済大学機関リポジトリ \(nii.ac.jp\)](http://nii.ac.jp))

☆矢野修一（2024）「「グローバル・サウス」への地政学的関心をめぐって」『地域政策研究』第26巻第4号、高崎経済大学地域政策学会。

([高崎経済大学機関リポジトリ \(nii.ac.jp\)](http://nii.ac.jp))

☆矢野修一（2024）「グローバル・サウスという「問い」に世界経済論はどう向き合うか—グローバル・ヒストリーとの協奏」『国際経済』日本国際経済学会。

[グローバル・サウスという「問い」に世界経済論はどう向き合うか \(jst.go.jp\)](http://jst.go.jp)

☆アルバート・ハーシュマン著／矢野修一訳（2005）『離脱・発言・忠誠—企業・組織・国家における衰退への反応』ミネルヴァ書房。

☆イアン・ゴールドディン著／矢野修一訳（2022）『未来救済宣言—グローバル危機を越えて』白水社。

ご清聴ありがとうございました

